

第61回東京矯正管区教諭師研修栃木大会（JKA競輪補助事業）

平成30年 6月21日(木)～22日(金) 開催

朗読 「ある抗議書」（菊池 寛 著）

記念講演

演題 「身と心の問題を見つめて」

講師 東京大学名誉教授

養老孟司氏



研修の成果

本研修会においては、ある抗議書あるを題材にして、「赦し」「救い」「償い」について考えるとともに、「宗教教諭の使命」について活発な研究討議が行われた。

まず、有岡氏による「ある抗議書」の朗読を経て、栃木県教諭師会から選出の4人（キリスト教、神社神道、仏教、被害者としての立場から）による発言があり、問題提起やこれまでの経験を踏まえ意見を述べた。

さらに、栃木県教諭師会から選出の質問者により、発題者へ質問や意見が述べられ議論が深まった。

次に、来場した参加者も議論に加わり「死刑を迎える坂下鶴吉が欣々然として絞首台に上っていったのであれば、それは教諭としては成功していたのではないか。」という意見や「教諭とはそもそも加害者に寄り添うものではないか。」、「被害者の気持ちを考えた教諭が必要ではないか」など、ある抗議書の内容から色々な意見が出た。また、このように工夫して教諭を実施しているという、教諭師としての経験から発言される方もおり、幅広く、深い議論が行われた。

題材はフィクションであるが、教諭師としての使命を考える実りある研修会となった。

第61回東京矯正管区教諭師研修栃木大会研修場面

- 菊池寛著「ある抗議書」朗読



- 研究討議



- 記念講演「身と心の問題を見つめて」 養老猛司 氏

